

山口情報芸術センター[YCAM] 演劇公演

「Life On The Planet (ライフ・オン・ザ・プラネット)」

テキスト：松田正隆 (マレピトの会) 演出：阿部初美 (mmp) ドラマトゥルク：長島確 (mmp) 音楽：大谷能生

2009年12月20日(日) 14:00 開演 (開場は30分前)

山口情報芸術センター[YCAM] スタジオA

仮想の未来の世界から、人間の存在と現代を問う演劇作品

太陽も海もない、空気さえも自分たちで作る閉鎖空間で、私たちは…？

山口情報芸術センター[YCAM]では、ドキュメンタリー演劇で高い評価を受ける演出家、阿部初美と、今年8月にYCAMで新作を発表した松田正隆による演劇作品「Life On The Planet」を上演いたします。

本作の舞台は、実在する人工閉鎖空間からアイデアを得た、仮想の近未来。そこには、太陽も海もない、空気さえも自分たちでつくる隔絶された環境が存在しています。そこで生きる人間の姿、そして、家族や生活、記憶を描き出した本作は、仮想の未来から、私たちの生きる現代を問う視点を、観客に与えていきます。

フィクションでありながらも、現実をモチーフにした独特のテーマを描いた演劇作品は、起こるかもしれない私たちの未来の姿を暗示しているのかもしれないかもしれません。



参考写真：「アトミック・サバイバー」(2008、川崎市アートセンター)
Photo: Ryohei Tomita

チケット情報

[チケット発売：any会員先行 11月1日(日) 一般 11月8日(日)]

料金：(全席自由)

前売 一般2,300円 / any会員・特別割引1,800円 / 25歳以下1,500円

当日 2,800円 ※当日は各種割引対象外

主催：財団法人山口市文化振興財団、文化庁
やまぐち地域文化芸術振興プラン実行委員会
後援：山口市、山口市教育委員会
文化庁『地域文化芸術振興プラン』プロジェクト
製作：mmp (ミクストメディア・プロダクト)
川崎市アートセンター
NPO法人アートネットワーク・ジャパン
企画・制作：山口情報芸術センター [YCAM]

ぜひこの機会に、取材や記事掲載ご協力いただけますよう、よろしくお願い申し上げます。

お問い合わせ 山口情報芸術センター[YCAM] 広報担当：廣田、辰村

TEL：083-901-2222 FAX：083-901-2216 e-mail：information@ycam.jp

〒753-0075 山口県山口市中国町7-7 <http://www.ycam.jp/>

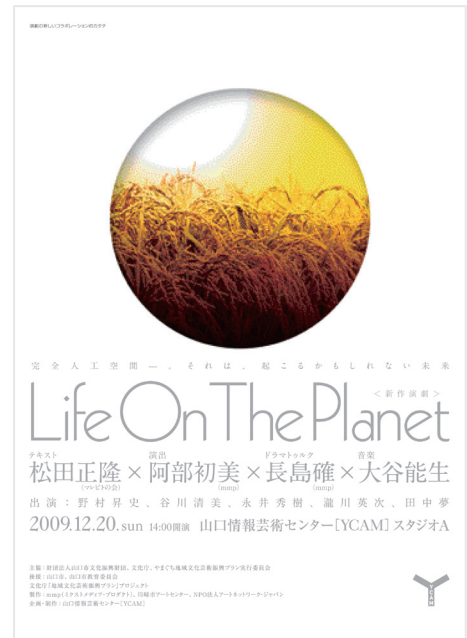
取材に関するお問い合わせ、プレス用写真等ご入用の方は上記までご連絡ください。

Life On The Planet (ライフ・オン・ザ・プラネット)

完全人工空間 — それは、起こるかもしれない未来

「地球環境と人間、自然と文明」をテーマにした本作は、国内に実在する人工閉鎖空間からアイデアを得ています。植物の栽培や動物の飼育、そして人間や動植物の生存実験までを、閉鎖空間のなかで実験するこの施設は、いわばミニ地球ともいえます。本作では、その目的や必要性を踏まえながら、完全人工空間における人間の姿を描いています。太陽も海もない、空気すらも自分たちでつくる隔絶された場所で、家族や生活、私たちの記憶は、どのように変化するのでしょうか。この作品は、フィクションではありますが、それは起こるかもしれない本当の未来ともいえるのです。

こうした仮想の近未来の視点から、観客に投げかけられるテーマ。それは、フィクションでありながらも、劇場と現実との境界をゆるがず演劇ならではの表現でもあります。地球温暖化や大気・放射能汚染など、人間をとりまく環境が悪化の一途をたどる現在にこそ、考えなければならない視点。それを、フィクションと現実、現在と未来という多層的な時間軸が交錯する演劇の世界観によって、観客にもたらししていきます。



本公演フライヤー

太陽のないバイオスフィア 阿部初美

四角い箱のような部屋、オレンジ色の人工光に照らされた稲穂が四隅までぎっしりと植えられている。

こんな光景に出会ったのは、06年、『アトミック・サバイバー』という作品の製作中、核燃料再処理工場の取材で訪れた、青森県六ヶ所村の「環境科学技術研究所」の一角にある人工閉鎖空間だった。そこではNASAの協力のもとに、人間の生活に必要な空気や水、光、食べ物などのすべてが人工的に作りだされ、かつてヒトの長期滞在が試みられていた。

なぜ、なんのために。

ここでわたしが見たものは、ある未来の断片なのだろうか？

『Life On The Planet』は、この人工閉鎖空間から着想した作品である。



参考写真：「PARK CITY」(2009、山口情報芸術センター[YCAM])
Photo: Ryuichi Maruo (YCAM InterLab)



参考写真：「アトミック・サバイバー」(2008、川崎市アートセンター)
Photo: Ryohei Tomita

演劇の新しいコラボレーションのかたち

本作は、創作方法においても、新しい挑戦を試みています。作品のテーマを主軸におき、それらに興味をもつアーティストが集まることで共同制作がおこなわれています。劇作家が書いたテキストの断片を、ドラマトゥルクが組み立て、演出家が舞台化。さらに音楽家が、実際の舞台でサウンドを奏で、それらすべてが、観客の目の前で融合していきます。一つの完全な戯曲を劇作家が書き下ろす従来の方法でなく、新しいコラボレーションの在り方を実践することにより、新たな演劇のライブ感覚を探ります。

※mmp（ミクストメディア・プロダクト）とは

阿部初美、長島確など複数メンバーによる、プロジェクトベースの作品制作レベル。志を同じくする、異なる分野のアーティストや専門家にプロジェクトごとに参加を呼びかけ、その共存・混在が新たな表現を生み出すような活動を目指す。今回は、松田正隆、大谷能生が加わり、新しい演劇のかたちを模索します。

<http://mmps.jp/>

<テキスト>

松田 正隆(まつだ まさたか)

劇作家・演出家／マレビトの会 代表



photo: Yujiro Sagami

1962年長崎県生まれ。1990年～1997年まで劇団「時空劇場」代表を務め、劇作・演出を手がける。1994年「坂の上の家」で第一回OMS戯曲賞大賞受賞。1996年「海と日傘」で岸田國士戯曲賞受賞。1997年「月の岬」で読売演劇大賞作品賞受賞。1998年「夏の砂の上」で読売文学賞受賞。2000年には京都府文化奨励賞を受賞。劇団解散後、フリーの劇作家として、青年団や文学座に作品を書き下ろしている。「海と日傘」は韓国語でも上演され（演出：ソン・ソノ）、日本戯曲としては初めて韓国の演劇賞である第41回東亜日報演劇賞を受賞。舞台戯曲のほか、黒木和雄監督作品「美しい夏キリシマ」にて映画脚本を手がける。2003年8月よりマレビトの会を結成し、劇作および演出活動を再開、現在に至る。主な作品に「鳥式振動器官」「パラノイズート」「アウトダフェ」「PARK CITY」など。

<演出>

阿部 初美(あべ はつみ)

演出家

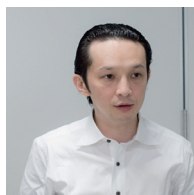


1970年茨城県生まれ。武蔵野美術大学卒業後、演劇集団円 演出部に所属。1995年より劇作家・演出家の太田省吾に師事。2000年より演出活動始める。2003年、ベルリン演劇祭Theatertreffen関連企画「若手演劇人の国際フォーラム」に招聘参加。2006年より、にしずがも創造舎レジデント・アーティスト。近年はドキュメンタリー的な手法を取り入れ、社会的なテーマを扱うSeries Complex Seeing (SCS) と題したシリーズを製作。主な演出作品に、2002年～2005年ベケットライブ（ベケット後期作品4作）、2004年「記憶」（台湾国際読劇節招聘）、2006年SCSvol.0「4.48サイコシス」（東京国際芸術祭）、2007年SCSvol.1「アトミック・サバイバー」（東京国際芸術祭）、2008年SCSvol.2「エコノミック・ファンタスマゴリア」（川崎市アートセンター）など。

<ドラマトゥルク>

長島 確(ながしま かく)

翻訳・ドラマトゥルク・批評

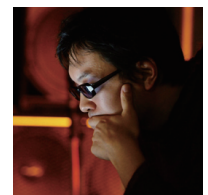


1969年生まれ。立教大学文学部フランス文学科卒業。同大学博士課程では、バイリンガルの作家サミュエル・ベケットの自己翻訳をテーマに研究。翻訳書に、ベケット「いざ最悪の方へ」（書肆山田）がある。1997年、ピーター・ブルックの来日公演で舞台字幕オペレータとして初めて演劇の現場に入る。2002年より阿部初美と組み、日本では数少ないドラマトゥルクとしての役割も担うようになる。そのほか、2005年「Re:Re:Re:place」（演出・高山明）2006年「アメリカ現代戯曲&劇作家シリーズ」（東京国際芸術祭）、2007年「死のヴァリエーション」（アントワヌ・コーベ演出）、アジア国際共同製作「演じる女たちーギリシャ悲劇からの断章」（国際交流基金）などにも参加。

<音楽>

大谷能生(おおたに よしお)

批評家、サクセス／エレクトロニクス奏者



1972年生まれ。様々な雑誌、webへの執筆・寄稿をおこない日本のインディペンデントな音楽シーンに深く関わる。著書に「貧しい音楽」、「M/D」などがある。音楽家としては、sim、massなど多くのグループに参加。2006年12月にソロ・アルバム『「河岸忘日抄」より』（原作：堀江敏幸）をHEADZからリリース。そのほか、様々なセッションでも演奏をおこなっている。

関連イベント

本作のテーマを読み解く。地球と環境を考えるレクチャー

本公演に先立ち、ドラマトゥルクの長島確と音楽の大谷能生によるレクチャーを開催します。作品に登場するテーマ「近未来の人工閉鎖空間」について、私たちの生きる地球や環境を考えながら、読み解きます。

レクチャー

「私たちが生きられる一番小さな生態系」

12月5日(土) 14:00～15:30

講師：長島 確(mmp)、大谷能生

定員：80名(要申込。空きがあれば当日参加も可)

参加無料

申込方法

はがき、FAX、e-mailにて、参加ご希望のレクチャー名をご記入のうえ、住所、氏名(ふりがな)、性別、電話番号、e-mail等連絡先とともに、下記までお申し込みください。

[締切11月28日(土)]

〒753-0075 山口市中園町7-7 山口情報芸術センター [YCAM]

Tel: 083-901-2222 Fax: 083-901-2216

e-mail: workshop09@ycam.jp

開催概要

演劇作品

「Life On The Planet (ライフ・オン・ザ・プラネット)」

テキスト：松田正隆(マレビトの会) 演出：阿部初美(mmp) ドラマトゥルク：長島 確(mmp) 音楽：大谷能生

出演：野村昇史(演劇集団円)、谷川清美(演劇集団円)、永井秀樹(青年団)、瀧川英次(七里ガ浜オールスターズ)、田中 夢(遊園地再生事業団)

2009年12月20日(日) 14:00 開演(開場は30分前)

山口情報芸術センター [YCAM] スタジオA

主催：財団法人山口市文化振興財団、文化庁
やまぐち地域文化芸術振興プラン実行委員会
後援：山口市、山口市教育委員会
文化庁『地域文化芸術振興プラン』プロジェクト
製作：mmp(ミクストメディア・プロダクト)
川崎市アートセンター
NPO法人アートネットワーク・ジャパン
企画・制作：山口情報芸術センター [YCAM]

空間美術：田原奈穂子(mmp)
照明：田島佐智子(mmp)
音響：木下真紀
舞台監督：喜久田吉蔵
ドラマトゥルク補：須藤崇規(川崎市アートセンター)
演出助手：田中智佳
宣伝美術：青木 正(Thomas Alex)
制作統括：大久保聖子(川崎市アートセンター)
制作：河合千佳(川崎市アートセンター)

川崎公演

2009年11月13日(金)～15日(日)
川崎市アートセンター アルテリオ小劇場
お問い合わせ：川崎市アートセンター
Tel: 044-955-0107
<http://kawasaki-ac.jp/>

チケット情報

料金：全席自由

前売 一般2,300円／any会員・特別割引1,800円／25歳以下1,500円

当日 2,800円 ※当日は各種割引対象外

[チケット発売：any会員先行 11月1日(日) 一般 11月8日(日)]

電話／窓口：

山口市文化振興財団チケットインフォメーション(YCAM内)

083-920-6111 (10:00～19:00 ※火曜休館・祝日の場合は翌日)

インターネット：

<http://www.ycfcp.or.jp/> (24時間受付 ※要事前登録)

■特別割引

特別割引は、シニア(65歳以上)、障がい者及び同行の介護者1名が対象。

■未就学児入場不可。

■託児サービス

対象：0才(6ヶ月)以上

託児時間：開演の30分前から終演30分後まで

料金：お子様1人につき500円、2人目以降は1人につき300円

申込方法：12月13日(日)までにチケットインフォメーションまでお申し込みください。

■車椅子席・補聴システム

事前にお問い合わせください。

